



インド現代史

180781222 山名里奈

書籍について

書名：「インド現代史
独立50年を検証する」

著者：賀来弓月

発行所：中央公論社

1998年7月25日



はじめに

本書の目的

巨大な国民国家インドの価値観

政治社会構造

機能メカニズム

わかりやすく説明



はじめに

インドを眺めるときの視線のおきどころ

知識人とパワーエリートの視点

社会の底辺の最貧層の視点

} どちらで見る？

筆者→社会の底辺部と国の周辺部（低いレベルの
視線）を重視

①インドの民主主義の変容

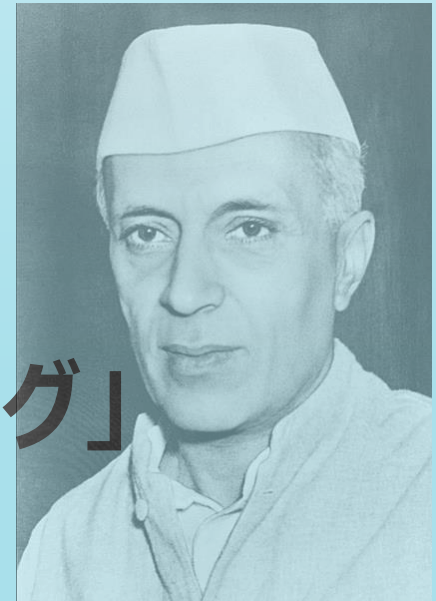
1. 「インドとインド人の恥」「ネルー・バッシング」

1997年 独立後50年

インド人の50%以上が文字を読めない、40%が貧困線以下の生活水準

↓ しかし

初代首相ジャワハルラル・ネルーの国民英雄的な地位は衰えていない！



① インドの民主主義の変容

2. インドの国家理念

- I 社会変革を通じて公平な社会を実現すること
- II 国民的統一と国家的統合を高揚させること
- III 民主主義の精神と諸制度を確立すること



①インドの民主主義の変容

3. インドに誕生した民主主義

⇒普通選挙制民主主義

発足の瞬間から、教育・財産・性に関係なく

すべての成年男女に選挙権と被選挙権が与えられた！

①インドの民主主義の変容

4. 歴史的発展の特徴

決定的な推進力となったもの

→都市部と農村部の貧困諸階層が新たに獲得した組織力

→市場では小さいが、政治（票）における力のシェアは大きい！

①インドの民主主義の変容

5. 統治の衰退

国家と市民社会の制度を中心に展開

→民主主義的政治

↳ **インドの状況** 両方の制度疲労と衰退を
反映

統治システム全体と運用者を国民が信用していない

①インドの民主主義の変容

1975年

インディラ・ガンジー首相が
国家非常事態宣言

→民主主義の諸制度の骨
抜きと疲労が加速化

→政治倫理の低下が激化



①インドの民主主義の変容

6. それでも偉大なインドの民主主義

民主主義はインドを天国にはしなかったが、

少なくとも地獄から救ったといえる！！

驚くべきことは

中央の政権が国民の選挙あるいは民主主義的な過程を経ずして誕生したり、変更されたりしたことが一度もなかったこと！！

②宗教と社会と政治

- **世俗主義**：インド憲法の最も重要な大原則、会議派の独立運動の主流を貫くイデオロギー、信者に対して同一かつ適正な尊重を確保
- **実践的な世俗主義**
 - 1) 生活側面からの宗教分離
 - 2) 宗教と国家の分離
 - 3) 宗教に対する完全な自由と、寛容
 - 4) 宗教信者に対する平等、差別の禁止

③カースト制度の現代的意味

カースト制度

- 「バルナ」（四姓）と「ジャッティ」（世襲的職業身分集団）からなる
- サンスクリット語でバルナは色を、ジャッティは生まれを意味する
- 伝統的な制度としてのカースト制度は、事実上崩壊してしまったといえる

③カースト制度の現代的意味

カーストの四姓

- ・ブラーミン（バラモン）
- ・クシャトリア
- ・バイシャ
- ・スードラなど

→これだけでは、現代インドのカースト議論を理解しきれない

④市場と国家と分配的正義

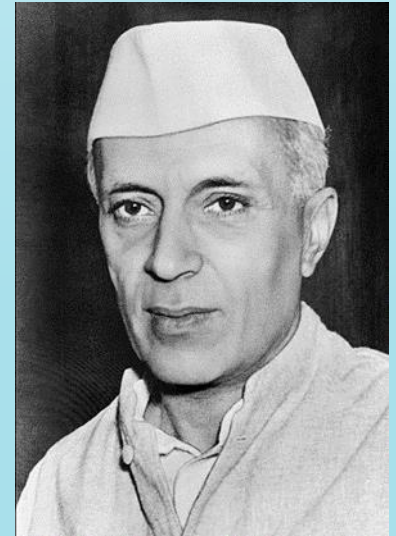
経済改革

- ・ 危機強制型
 - ・ 国民各層に本当に受容されているのか？
 - 1) すべての政党が受容していることは一応正しい
 - 2) 都市部の中産階級は経済改革を謳歌
 - 3) 貧困層は経済成長から取り残されている
- 国民世論がひとつにまとまっているとは、とてもいえない状況
- ・ 経済改革から派生する諸問題がある

⑤ 苦悩するインド外交

1. インドの外交哲学

ネルー首相：カシュミールのブラーミン（バラモン）の家柄出身
英国の名門ハロー校とケンブリッジ大学を卒業



- 「インド貴族」で、皮肉とユーモアのある人
- 華麗な外交のスタイル、外交哲学
- インドの「外交上手」と「重要な大国インド」のイメージを確立
- 反帝国主義者（反植民地主義者）

⑤ 苦悩するインド外交

2. ネルーの外交哲学的な遺産

- 1) 独立国家の思考と行動の独立性を維持
- 2) 国際秩序の民主化と国際社会における分配的正義の実現
- 3) インドの外交政策に高尚性と優越性を反映させること



- 非同盟、反植民地主義、新国際経済秩序、国際平和主義など、インドの外交と国家安全保障の政策を語るイディオムは遺産の表現

⑤ 苦悩するインド外交

3. 「非同盟」

- ・ インドの思考と行動の独立性を維持する要請から生まれたもの
- ・ 冷戦下の米ソ対立という二極構造の国際システムにおける「中立」ではない
- ・ インドでは国際関係における独立の判断を行う権利を意味する



1962年 中印戦争
ネルー首相 米国ケネディ大統領に対して軍事援助を要請

1971年 対パキスタン戦直前
インディラ・ガンジー首相 ソ連との間に平和友好協力条約

おわりに

- ・ **日本とインドが新しい国際秩序の形成を目指す**

- 1) 日本はもっとリーダーシップをとるべき

- 2) お互いに相手の高い能力をもっと評価する必要がある

→インドの人々の知的な資質の高さは世界で評価されている

→インドの最大の強みは、巨大な層をなす優秀な中産階級の存在

- 3) 日本人の表現能力、コミュニケーション能力の訓練が不足

→インド人と日本人の「心理的な距離」の問題が発生

インドは日本にとって大切な国！日本とインド間の関係の、拡大と深化を願う

ご清聴ありがとうございました

